

## ◎裁判醫學ノ必要ヲ論ス

會員 田中正鐸述

裁判醫學 Die gerichtliche Medicin ハ紀元千五百三十二年伊太利國ニ創メテ開ケル學ニテ彼ノ「カール」第五世カ Die peinliche Halsgerichtsordnung ヲ廣布セシニ濫觴ス千六百年「パウルモ」府大學教授 Fortunato Fedele 氏併ニ「ローマ」府ノ Paolo Vaccaria 氏ノ如キハ實ニ此學開源ノ先哲者ナリトス佛國ニ於テ千七百年代「メッツ」有名ノ外科醫 Amt Louis 氏ニ至テ此學ノ端緒ヲ誘キタリト雖モ此學ノ眞理ヲ學說上ニ論究セシハ紀元千六百八十九年獨逸國ニアル Johann Bohn 氏ニシテ氏ハ「ライプツヒ」大學ノ教授ナリキ後次テ「ハルレ」ニハ Michael Alberti、「マナ」ニ Hermann Friedr. Teichmeyer「ライプツヒ」ニ Joh. Ernst Heintzeit「ユルンゲン」ニ Joh. Theodor Pyl「キエーニユンゲン」ニ Joh. Daniel Metzger ノ諸

先哲踵ヲ接シテ續々諸府ニ雜飛シ頗リニ此學ノ要旨ヲ論述セリト雖モ此學ノ爲メ一書ヲ編出セシハ實ニ「エランゲン」大學ノ教授 Adolph Henke 氏ヲ以テ魁トシ續テ Mende, Fahner, Bernh. Wilderg ノ如キ諸家ノ編纂ニ係ハレル書アリ然レモ伯林大學ノ教授 Joh. Ludwig Casper ニ至リ創メテ一大著作ノ裁判醫學書ヲ顯出シ大ニ此學ノ新面目ヲ現ハセリ英國ニ在テ此學ノ緣由セシハ尙ホ近來ノ事蹟ニシテ實ニ千八百年代「エヂンブルグ」大學教授 Robert Christison 氏ノ中毒斷訟事件トス支那ニ於テハ宋ノ淳祐年間此學ニ關セル種々ノ編著アリト雖モ今日ヨリ尙ホ僅々四十有五年ノ往時ニ屬ス我國ノ如キハ昔時ヨリ裁判醫學ノ名稱ヲ冠シテハ行ハレサリシモ暗々裡ニ此學ノ社會ニ行ハレタルハ鎌倉北條ノ際ニアリトス

已上述フルカ如ク往時既ニ各國ニ此學ノ存在ヲ徵スレ

凡裁判醫學トシテ社會上ニ現出シ法律ト相斑シテ行ハ  
 ルニ至リタルハ尙ホ今日ヨリ三十年前ノ事ナレハ我  
 國ニ於テ未タ此學ノ完全ヲ見サルハ敢テ怪ムニ足ラサ  
 ルナリ況ンヤ我國法律ハ五六年前ニ至ルマデ大抵其根  
 元ヲ佛國ニ取リタルカ故ニ佛國ノ法律上此裁判醫士ヲ  
 要スル稀ナルオヤ然レモ近來裁判ノ構成、法律ノ式條  
 ハ多ク之ヲ獨逸ニ則トルニ至レルカ故ニ裁判醫學ノ必  
 要ヲ我刀圭社會ニ訴フル蓋シ是レニ職由セシナル可シ  
 加之獨逸ノ法律上此學ノ相關涉スルノ場合多ケレハナ  
 リ況ンヤ我國現今ノ國勢愈進歩シテ益々文化ノ域ニ達  
 セントスルニ於テオヤ知ラスヤ市町村制ハ既ニ實施セ  
 ラレ郡縣ノ制亦近々發布セラレントスルヲ將來吾人醫  
 師タルモノハ法律上裁判官ノ要求ニ應スル益々多端ヲ  
 加フルナルヘシ彼ノ帝國大學國科醫學講習ノ課ヲ設ク  
 ルモ亦此點ニアルヘキヤ必セリ

(演說) 裁判醫學ノ必要ヲ論ス

今マ此裁判醫學ノ定義ヲ解説スルニ人民相集合シテ一  
 ノ國家ヲ組成スルヤ其國民タルモノ必ス各自ノ財產ヲ  
 保護シ其國民タルモノ必ス各己ノ生命ヲ安寧ニシテ順  
 次其國家ヲシテ文化ノ域ニ運フノ企望ト念慮トヲ抱  
 カサルモノナカルヘシ苟モ其安寧ト保護トノ完全ヲ得  
 テ一國家ノ整然嚴立センヲ欲セハ須ク其國民タルモ  
 ノハ善良ノ國法ヲ撰定シ其國ニ發起スル巨細ノ事業一  
 ニ其國法ニ標據シテ以テ判決斷察セハ弱ノ強ニ屈シ強  
 ノ弱ヲ壓スルカ如キナカルヘキナリ大古未開ノ時ニ在  
 テハ其法甚ダ粗略ニシテ所謂結繩ノ政モ當時人民ヲ統  
 御スルニ困ムカ如キ患ヒナカリシモ民智ハ一定度ニ停  
 在セス却テ漸次ニ高尚ノ方向ニ進行スルモノナレハ亦  
 タ從テ其法モ愈密ナラサルヘカラス是レ今日ニ法律學  
 政事學ノ人智ニ隨伴シ變々乎トシテ其勢停止スルノ度  
 ナ見サル所以ナルヘシ然レモ例令ヒ法律ノ善良政事ノ

美果ヲ顯スニ至ルモ其國ニシテ人民各自ノ生命ヲ安寧ナラシムヘキ衛生ノ法、治生ノ律未タ十分國內ニ布及セスンハ其國ハ以テ文化ノ地ナリト稱スルヲ得ス其邦ヤ以テ開明地ト誇ルヲ得サルナリ是レカ故ニ一國家ヲ整然高尚ノ度ニ進マシメント欲セハ必スヤ法律ト醫學トハ兩立シテ共ニ進行セサルヘカラサルモノトス即チ法律ヲ以テ各自ノ財産ヲ保護シ醫術以テ各己ノ生命ヲ安寧ナラシムヘキナリ再言セハ法學ニシテ人間世界ノ困苦ヲ救助スルコト醫學ニシテ人間ノ困苦ヲ救助スルコト少シモ法學ニ譲ラサルナリ然リト雖モ法學ニ於テハ人間ノ困苦ヲ救助スルニ法律ノ範圍ヲ利用シ醫學ニ在テ人間ノ困苦ヲ救助スルニ醫療ノ經驗ヲ應用スルノ差アリ而シテ法律漸次嚴密ニ至レハ從テ醫學ノ應用ヲ藉テ以テ法律上ノ斷訟ニ判決スルヲ要スルコト多クナラサルヘカラサル一ノ約定 Bohingung ナ發見スルモノニシ

テ今マ此法律ト醫學トノ中間ニ位シ法ト醫トノ助ケヲ藉リテ一國ノ安寧保護ヲ完全ナラシムルモノハ即チ裁判醫學ノ本旨ナルカ故ニ此學海ノ波瀾其關涉スルノ大ナル知ルヘキナリ此學ニ國政醫學 Staatsarzneikunde 或ハ社界醫學ノ名稱アル蓋シ偶然ニアラサルナリ醫學ハ前ニ陳フルカ如ク病魔ニ損害セラル、天稟ノ軀體ヲ生理的ニ保護スルモノナリ而シテ其中間ニ位スル裁判醫學ハ病魔ノ損害ヲ保護シテ生理的ノ軀體ヲラシムモノナルヤ否ナ決シテ如斯モノニアラス裁判醫學ハ其實 Gerichtliche Medicin ナル Medicin 即チ Heilkunde 醫療ノ名義ヲ冠スル病者ヲ醫シ其困苦ヲ緩解セシムルカ如キコトハ此學ノ關スル所ニアラス只醫學の實地上ニ練磨セル實驗ノ力ヲ藉テ病患ノ狀態、損害ノ輕重其自他ニ係ハル鑑別精神病ノ有無等ヲ診斷スルニ止マリ又裁判官ハ是ヲ法律上ニ參照シテ公平ノ判決ヲ與フルノ

便チ得ルモノニシテ是レヲ約言セハ法律ト醫學トノ力ニ依テ人間天稟ノ權利ヲ完全自由ナラシムルニアリトス是レカ故ニMende氏は學ニ冠スルMedizinische Hilfsk<sup>unde</sup> des Rechts權利ノ醫學的治療學ヲ以テセリ實ニ此名稱當チ得タルカ如シ

今マ爰ニ二子ヲ持テル父アリト假定スルニ長子ハ精神病ニ罹レリトシテ其父是レニ家督ヲ讓與スルヲ欲セス却テ是レヲ第二子ニ讓ラント欲ス長子ハ父ノ專斷ニ服セス是チ官ニ公訴ス裁判官タルモノ此場合ニ在テ實際其長子ニ精神ノ異常アルヤ否ヤヲ察斷スル能ハサルニモ係ラス若シ父ノ陳述ヲ信シテ家督ヲ第二子ニ讓與セシカ長子ハ己ニ天稟ノ權利ヲ失ヒ終生社界ニ獨立シテ他人ト通常ノ交通ヲ受クル能ハス然ルニ此際裁判官ニシテ裁判醫ヲ招聘シ是レヲ鑑定セシムルニ父ノ陳述ハ完ク裁判醫ノ鑑定ト相反シ父ノ言以テ詐偽ニ出テタ

リトセンカ裁判官ハ爰ニ於テ長子其家督ヲ受クヘキノ適當ナルヲ判知スヘシ長子ハ父ノ爲メ天稟ノ權利ヲ損害セラレントスルニ際シ裁判醫ノ鑑定ト裁判官ノ宣告トニ據テ天稟ノ權利ヲ依然存存シテ其家督ヲ讓與セラ<sup>ル</sup>ニ至ルヘキナリ裁判醫ノ一言一語ハ如斯際ニ於テ其人ノ權利有無ノ如何ニ關スルカ如ク其重大ナル思フヘキナリ然ラハ吾人醫士タルモノ須ク常ニ此學ヲ研究シ裁判官ノ法律應用上ニ要スル參照ヲ確實ナラシメサルヘカラス若シ裁判醫ニシテ其鑑定不當ヲ致スカ如キハ犯罪人ナシテ却テ無章ノ民ヲラシメ無罪人ナシテ有罪タラシムルモ亦タ知ルヘカラス或ハ裁判官ナシテ徒勞ノ雜務ニ彷徨セシムルカ如キヲアリ即チ今マ爰ニ一ノ自ラ溺死セル人アリト假令セヨ然ルハ裁判醫是ヲ檢屍シテ溺死ノ因是レヲ自ラ溺死セリト鑑定セハ裁判官ノ業務ハ茲ニ終レリト雖モ若シ其裁判醫ニシテ誤テ

溺死ノ因ハ是レチ他人ノ投入ニ歸セシヲ鑑定シタラ  
ンニハ裁判官ノ業務ハ是レヨリ一層繁雜トナリ其犯罪人  
索探ニ從事シ無益時日ヲ徒勞セシムルカ如キ是レナリ

## 雜 錄

### ◎ヒルシユベルヒ氏眼療術(第二回

尋常結膜炎ノ續)

會員 寺西幸作

(原因)新鮮空氣ノ欠亡即チ汚穢ノ空氣ヲ充ス室内ニハ  
此病ヲ發スルヲ甚ク多シ外襲的害物ハ普通ノ原因タリ  
故ニ炊女、蒸餅焙燒者、左官、石工、壁塗師、給使、製煙草  
者及過度ノ喫煙者ハ頗々此病ノ機性トナル

其他近隣即鼻淚管、顔面皮膚ノ炎症結膜ニ移行スルヲ  
アリ即チ急性或ハ慢性ノ顔面發疹アルトハ結膜炎ヲ發  
スルカ如シ時トシテ此發疹ニ應用シタル藥品例ハ「ク

リツファン酸ニ由テ發ス故ニ該藥ヲ用ユルコハ唯ニ%  
ノ軟膏ヲ用ヘー〇%ヲ用ユヘカラス

(治法)甚タ單純ナリ勉メテ有害物ヲ除去スヘシ急性初  
期ニハ寒罨法一日三乃至四回二十分間宛行フヘシ  
分泌液増盛シタルハ主劑トシテ硝酸銀ヲ用ユヘシ

硝酸銀 〇、二乃至〇、二 蒸餾水 二五、〇

右黑瓶ニ容レ塗布毛筆ヲ添エ與フヘシ

之ヲ毎日若クハ隔日ニ反轉シタル眼瞼上ニ塗布シ後ニ  
清水ヲ以テ洗滌スヘシ其後ニ發スル疼痛(劇シカラス)  
ヲ減退セシニハ冷水罨法ヲ十五分時間行フヘシ

(附) 比氏ハ硝酸銀ヲ處方スルヲ左ノ如シ

加苔兒性結膜炎ニハ 半「プロセント」

トラホーム性結膜炎ニハ 一「プロセント」

膿漏性結膜炎ニハ 二「プロセント」

亦補助藥トシテ亞鉛若クハ鉛液ノ罨法ヲ處ス即チ朝夕